

植物余話

●ヒツジグサは初夏の花………廣田伸七

ヒツジグサは蒸し暑い日本の夏に一服の清涼感を与えてくれる植物である。

初夏になると各地の池や沼に水面一面に葉を浮かべ、ところどころに直径5 cmほどの純白の花を咲かせるヒツジグサは眺める人に涼しさを運んでくる。

水草に何故「未草・ひつじぐさ」の名がついているのだろうと疑問に思われる人があるかも知れない。ヒツジグサなどと如何にも羊と関係があるかのような名前であるが、ただのスイレンではないと言われる人があるかも知れない。正にそのとおりでスイレンの仲間である。

ヒツジグサはスイレン科スイレン属の1種である。スイレン属は世界の温帯、熱帯に広く分布している植物で約40種ぐらいある。普通園芸用として栽培されているものの多くは北米産の種類が多く、また、温室ではアフリカ産の熱帯産のスイレンが栽培されている。これらのものは花の色も様々で赤、紫、黄、白と各種あり、花の大きさも大小がある。

日本の山野に自生しているものは *Nymphaea tetragona* Georgi (テトラゴナ)、英名は pygmy water lily、中国名・睡蓮、和名はヒツジグサと言い、日本では北海道～九州

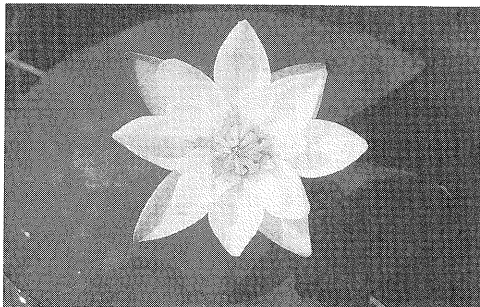


▲北海道大沼公園に咲くヒツジグサ

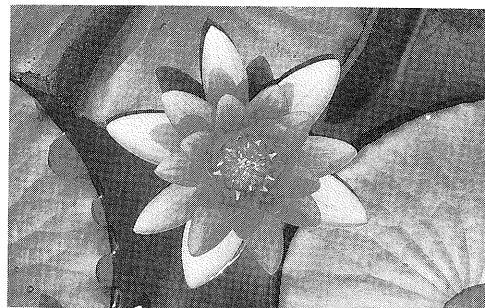
に分布し、世界では中国、インド、シベリア、ヨーロッパに分布する種である。

和名のヒツジグサの語源は花が咲くころの時間が「未の刻」現在の午後2時に開くからということから「未草・ヒツジグサ」と名づけられたと言われているが、実際には午前中から開くものもあり一定ではない。花の色は白色で大きさは径5 cm前後、日中開いていて夕方6時ごろに閉じる。これを3日間ぐらい繰り返して散る。未の刻、ひつじのこく(時)に花が開くからヒツジグサ、昔の人の知恵である。

これから池や沼で「ヒツジグサ」の花を見たらスイレンと呼ばず「ヒツジグサ」と呼び昔の人の知恵を偲ぶのも風流である。



▲ヒツジグサの花



▲熱帯性のスイレンの花